



HIBINO

世界最高水準!! インカメラVFXスタジオ 「Hibino VFX Studio」ヒビノ開設

コンサートやイベントの大型映像・音響システム運用を得意とするヒビノ株式会社が、世界のコンテンツ制作で最もホットな「インカメラVFX」機能を備えたバーチャルプロダクションスタジオ「Hibino VFX Studio」を開設、7月からレンタルサービスを開始する。「最高水準」と自信あふれるインカメラVFX技術をレポートする。(レポート:吉井 勇・本誌編集部、写真提供:ヒビノ)

インカメラVFXとは

インカメラVFXという制作方法は、インターネットドラマ『マンダロリアン』シリーズ(2019年~制作)で使われ、その完成度があまりにも完璧だったことから脚光を集める最も斬新な手法である。

システム構成はLEDディスプレイシステム、カメラの動きをトラッキングするシステム、映像データをリアルタイムにレンダリングする処理エンジンというデジタル技術の粋と、ライブ撮影の照明デザイン、大・小道具類の制作など、経験で培ったアナログ的なノウハウを結びつけて生み出された仮想撮影空間である。

10年来の信頼関係で実現した導入

ヒビノは、最先端の撮影手法であるインカメラVFXシステムを、なぜいち早く構築できたのか。「LEDディスプレイの最高モデルを提供するROE Visual社(本社・深セン市)と10年来

の関係があったからです。導入したLEDディスプレイは1.56mmピッチの『Ruby1.5F』、最先端の機種です」と取締役 常務執行役員・芋川淳一氏は説明する。

Ruby1.5Fは反射のないマットな表面処理と、発光効率が高く色再現能力に優れたFlip chip LEDを採用し、色空間は8Kの色域規格Rec.2020の85%を実現している。まさにインカメラVFX専用のLEDディスプレイだろう。

撮影エリアのLEDディスプレイは全長12m、高さ4mで、ピクセル数W7,680×H2,560。それを320×320ピクセルの50cm角を1つのモジュールとし、総数192モジュールで組み上げている。

これらのLEDを表示させるのがBromptonの4K LEDプロセッサ「Tessera SX40」である。「8Kに近い解像度表示なので、4Kプロセッサを4台使用し、4出力を1面として表示させています」とヒビノビジュアルDiv. Visual2部ライブエンターテインメント3課係長・



写真左から取締役 常務執行役員・芋川淳一氏、ヒビノビジュアルDiv. Visual 2部ライブエンターテインメント1課課長・東田高典氏

瀧田稔久氏は説明する。このプロセッサで色調整、色域調整、色温度調整、スケールング、1モジュールごとの色味、色むら補正、内部温度などの情報、エラー情報、通信情報、駆動時間、Heat mapなどを把握し、調整ができる。「それらの情報から劣化部分や不安定な個所を診断し、必要な交換作業を行っています」と、ベストな稼働を確保すると瀧田氏は続けた。

環境照明もLEDディスプレイ

バーチャル撮影でカギを握る照明は、天井と側面に環境照明用LEDディスプレイを採用。これもROEの5,000cd/m²という5.77mmピッチ「Carbon5」を採用し、空の青さや想定ロケ現場の光、炎の揺らめきなどの